

会議録

名称	第2回 子ども・子育て会議
開催日時	令和6年7月31日（水） 10:00～11:40
開催場所	各務原市役所本庁舎4階 4-3・4-4会議室
出席者	西垣吉之会長、杉山章副会長、本多雅人委員、水野香織委員、 竹内育美委員、小林由季委員、白木京子委員、田島美紗委員、 杉山一夫委員、渡辺千尋委員、小川伸委員、横山実希委員、 松原里佳委員、山田正継委員、藤吉里美委員、別宮理恵委員 近藤亜矢子委員、江口佑美委員、中山絵里子委員、座間美奈子委員 事務局：子育て応援課、子ども家庭支援課、健康管理課、 教育委員会事務局総務課、学校教育課
議題及び 審議結果等 の概要	次第 1 開会 2 健康福祉部参与挨拶 3 議事 (1)「(仮称)各務原市こども計画」策定方針（案）について (2) こども・若者を取り巻く現状について 4 その他 5 閉会
	1 開会 ・各務原市附属機関設置条例により、過半数の委員の出席があることから、本会議が有効に成立していることを報告。 ・傍聴希望者が1名であることを報告。 2 健康福祉部参与挨拶 大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。今回から令和7年から11年度までの各務原市こども計画策定に入らせていただきます。色々、ご意見いただきまして、こどもたちの未来のための計画としてより良い計画にしたいと考えておりますので、ご協力お願いします。 3 議事 (1)「(仮称)各務原市こども計画」策定方針（案）について 《事務局より説明》 （資料①、参考資料） 《質疑意見》

	【会長】 ・計画の対象が思春期から青年期、おおむね 18 歳からおおむね 30 歳未満まで、施策によっては 40 歳未満までとなっているが定義はどこに記載しているか。 【事務局】 ・「こども大綱」の定義を記載している。 ・3 ページ目に「こども大綱」抜粋を掲載。 【委員】 ・乳幼児から 3、40 歳まで一括りにして良い内容なのかとを感じる。 ・各務原市の独自性を持たせた方がよい。 【委員】 ・対象者が 3、40 歳までとなり原点に戻り、いのちの大事さを教える取組と検診の方法を取り込んでほしい。 【会長】 ・対象が幅広くなることで散漫になり弊害が起こりうる可能性がある。 ・様々な事業を展開しているが、現実的に子どもが幸せになっているか、あるいは子育て家庭にとって幸せになっているか見えてこない、一方で、出生率が伸びない。 ・各務原市において、どんな事業を中心にするか考えていくことが大事だと思う。 【委員】 ・強い個人を作る、未来の見えるこどもの育て方が大事かと思う。 【委員】 ・対象が 40 歳まで枠が広げられているのは、大人になりきれない大人の方が増えているのでは。 ・子育て世帯を支えようという考えが増えると良い。 【委員】 ・多様性の中、若者を一律にみていくことは難しい状況。 ・様々なニーズを取りこぼさないようにしていくことが大事だと思う。 ・資料①の 10 ページ目 子育て世帯訪問支援事業、児童育成支援拠点事業、親子関係形成支援事業が新規で追加され、どんな家族も取り残さないために必要な事業だと思う。効果的に届ける仕組みが考えられると良い。 【委員】 ・「高校生×大学生のワークショップ」について、なぜ、対象を高校生と大学生にしたか。
--	---

- ・当会議に子どもは参加できるのか。

【事務局】

- ・小学生と中学生には学校を通じてアンケートを実施している。広報やチラシ配布等で若者向けにもアンケートを実施しているが必ず回答してもらえないわけではないので、実際に集まってワークショップに参加してもらうのは高校生と大学生に限定した。
- ・この場に当事者が出席することは考えていない。傍聴については年齢制限がない。
- ・当事者の意見を聞くことが求められているので、継続的に意見を聞く方法は今後検討していく。

【会長】

- ・こども・若者の生活と意識に関する意識調査の回答状況は。

【事務局】

- ・全体で 900 件以上の回答状況です。

【会長】

- ・調査の結果はまた見せてください。
- ・支援が必要な当事者の意見を聴取する方法があるとよい。施策に求めている方がどのような施策であれば利用しやすいか考える機会になる。

【委員】

- ・様々な事業を実施しているが、事業を絞ったほうが良いのでは。各務原市としてどこを重点にするかが重要だと思うので、その点どのように考えているのか。
- ・自分は支援が必要なのか当事者は理解していない。支援が必要な人を拾い上げるために、どういう仕組みを構築するかが重要。立派な計画を作成したとしても対象者が上手く拾い上げられなければ提供することができない。その点どのように考えているのか。

【事務局】

- ・事業量の設定については、実施する事業に関してはすべて掲載する。各事業に関して、第2期の計画においても重点事業にはしるしをつけている。今後、委員のみなさまの意見を聞きながら記載については検討していく。
- ・支援が必要な方の支援は、本人からの発信を待つだけではなく、市から繋がっていくことも大切だと考える。子ども家庭支援課では、こども家庭センターを本年度立ち上げ、妊産婦から子育て期まで支援ができるよう伴走型支援などの施策を実施し、家庭に繋がるような仕組み

を今進めている。

【委員】

- ・そういったものもぜひ、施策の中に組み込んでほしい。

【会長】

- ・支援が必要な方が必ずしも支援を求めているわけではない。支援が必要だと気付かせることも大事だが、一方で支援を求めている方がスマホで回答するとおすすめの事業が分かるといった仕組みはないのか。事業がたくさんありすぎてよくわからず利用できない。

【事務局】

- ・福祉分野のICT化は遅れている。子育て世帯はサービスや給付など様々あり、ホームページで調べても不便に感じることはあるので、少しでもICTを活用できるように検討中です。ある程度、時間をいただければ可能なものがあるかと思うので、みなさまのご意見を取り入れながら良いものにしていきたい。

【委員】

- ・こども家庭支援センターの役割は。

【事務局】

- ・妊娠から出産、成長期のお子さんまでを一連で相談支援を行う機関。こどもに関する総合的な窓口で相談があったら関係機関と連携をして支援に繋いでいく。

(2) こども・若者を取り巻く現状について

《事務局より説明》 (資料②)

《質疑意見》

【委員】

- ・ニーズ調査について回答率が20パーセントと少ないと思った。本調査はどのように配布・周知をしたのか。

【事務局】

- ・就学前児童の保護者に関しては、全ての園に配布することはできなかった。西部東部で分けて保育所・幼稚園等に園を限定して配布した。小学校の保護者に関しては、当時の小学校2年生と小学校6年生を対象に配布した。

【委員】

- ・15ページ(8)放課後の過ごし方について、現在の放課後に過ごす場所(小学校低学年児童のみ)の無回答の割合が高い。自分が安心して過ごせる居場所がないということが問題になるのでは。今後、法的

	にどう拾い上げていくのか期待したい。 【委員】 ・ 4 ページ（5）出生等の状況について、出生率の減り具合について他市町村と比べてどうなのか。 ・ 制度があっても利用しにくい。今ある制度を实际利用する方がどうやって利用するか考えて改善していかないと新しい制度を作ったとしても有効に稼働するのに時間も人材も必要になる。現在ある制度を改善できる点があると思う。 【委員】 ・ 地域との関わりを行政からバックアップしてほしい。地域のつながりをプッシュした施策を策定すると、移住者にとっても子育てしやすいと実感が得られると思う。 【会長】 ・ その他、ご要望や意見がありましたら事務局の方に伝えてほしい。 4 その他 【事務局】 ・ 次回の開催について案内 5 閉会
会議資料	資料① 「（仮称）各務原市こども計画」策定方針（案）について 資料② こども・若者を取り巻く現状について 参考資料
備考	